

の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.015、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑫はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後48～81日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.016、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（200L/10a、120-200L/10a）を3回散布したところ、施用後3～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.072、0.354 ppm

クロチアニジン：0.007、0.020 ppm

⑬キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.310、0.078 ppm

クロチアニジン：0.028、<0.005 ppm

⑭こまつな

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶液の2000倍希釈液を2回散布（350L/10a、300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.92、2.34 ppm

クロチアニジン：0.10、0.360 ppm

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（播溝処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（350L/10a、300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.58、2.10 ppm

クロチアニジン：0.14、0.40 ppm

⑮みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（播種時作条処理 6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a、185.2L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.93、1.18 ppm

クロチアニジン：0.08、0.18 ppm

⑯チンゲンサイ

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を培土床土混和1回（15g/1L）、作条処理1回（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、220-250L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.78、2.82 ppm

クロチアニジン：0.09、0.32 ppm

⑰ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後56～65日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.018、0.060 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理 2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈（300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.825、0.359 ppm

クロチアニジン：0.086、0.019 ppm

⑱カリフラワー

カリフラワー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（育苗箱処理 1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a）を3回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.128、0.055 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑲レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴

処理 1g/株)及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (250L/10a、300L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 7~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.290、0.614 ppm

クロチアニジン : 0.015、0.024 ppm

⑳ サラダ菜

サラダ菜 (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (1g/株) したところ、処理後 42~70 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.40、1.36 ppm

クロチアニジン : <0.05、<0.05 ppm

サラダ菜 (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回 (植穴処理 1g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (300L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 3~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 7.81、9.87 ppm

クロチアニジン : 0.10、0.09 ppm

㉑ リーフレタス

リーフレタス (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (1g/株) したところ、処理後 61~73 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.28、<0.05 ppm

クロチアニジン : <0.05、<0.05 ppm

リーフレタス (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回 (植穴処理 1g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (250、300L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 3~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 7.34、3.14 ppm

クロチアニジン : 0.20、0.07 ppm

㉒ ねぎ

ねぎ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回作条処理 (9kg/10a) したところ、処理後 69~131 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.094、0.078 ppm
クロチアニジン : 0.022、0.022 ppm

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（作条処理 9kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の1000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、施用後3～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.566、0.557 ppm
クロチアニジン : 0.059、0.076 ppm

㊸にら

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（作条処理 6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、230L/10a）を3回散布したところ、施用後14、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.74、0.15 ppm
クロチアニジン : 0.19、0.42 ppm

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を1回（作条処理 6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、230L/10a）を3回散布したところ、施用後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.38 ppm
クロチアニジン : 0.67 ppm

㊹わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条処理（9kg/10a）したところ、処理後23～77日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.05、0.61 ppm
クロチアニジン : <0.05、0.06 ppm

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条処理（9kg/10a）、1回株元処理（9kg/10a）、および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 1.28、3.96 ppm
クロチアニジン : 0.08、0.21 ppm

㊺アスパラガス

アスパラガス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤

の2000倍希釈液(300L/10a)を3回散布したところ、散布後7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

㊸セロリ

セロリ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回株元処理(2g/10a)及び1回植穴処理(2g/10a)したところ、処理後75~112日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.1、0.30 ppm

クロチアニジン：<0.1、<0.1 ppm

㊹トマト

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)したところ、処理後44日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008 ppm

クロチアニジン：<0.005 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液(200L/10a)を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.104 ppm

クロチアニジン：0.018 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.077 ppm

クロチアニジン：0.010 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、施用後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.154 ppm

クロチアニジン：0.024 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、施用後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.156 ppm
クロチアニジン : 0.038 ppm

⑳ ミニトマト

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後72、60日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.06、<0.02 ppm
クロチアニジン : 0.02、<0.02 ppm

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300-360L/10a、350L/10a）を1回散布したところ、施用後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.44、0.08 ppm
クロチアニジン : 0.10、0.08 ppm

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300-360L/10a、350L/10a）を2回散布したところ、施用後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.79、0.17 ppm
クロチアニジン : 0.16、0.19 ppm

㉑ ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後42、82日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.023、<0.005 ppm
クロチアニジン : 0.008、<0.005 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）、および10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（180L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.200、0.267 ppm
クロチアニジン : 0.016、0.016 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（180L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.411、0.310 ppm
クロチアニジン : 0.044、0.034 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）、および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（180L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.439、0.402 ppm

クロチアニジン：0.032、0.056 ppm

⑩なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後97、108日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.069、0.040 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.121、0.054 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.106、0.055 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑪ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（150L/10a、250L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.53、0.60 ppm

クロチアニジン：0.08、0.05 ppm

⑫とうがらし

とうがらし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、100-150L/10a）を3回散布したところ、施用後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.76、0.34 ppm

クロチアニジン：0.16、0.03 ppm

⑬きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）したところ、処理後43、34日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を2回散布（250L/10a、200L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.076、0.104 ppm

クロチアニジン：0.005、0.006 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、200L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.172、0.162 ppm

クロチアニジン：0.010、0.008 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、200L/10a）を3回散布したところ、施用後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.141、0.132 ppm

クロチアニジン：0.008、0.008 ppm

⑭すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（176.5-200L/10a、76.1-272.4L/10a）を3回散布したところ、処理後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.017、0.046 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.007 ppm

⑤メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後83、87日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.007 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.049、0.029 ppm

クロチアニジン：0.006、<0.005 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.023、0.064 ppm

クロチアニジン：0.008、0.014 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200-217L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑥にがうり

にがうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（100-200L/10a、202L/10a）を3回散布したところ、施用後7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.17、0.06 ppm

クロチアニジン：<0.01、0.01 ppm

⑦食用へちま

食用へちま（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、180L/10a）を3回散布したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.11、0.09 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

③⑧ えだまめ

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、400L/10a）を2回散布したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.061、0.025 ppm

クロチアニジン：0.020、0.020 ppm

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、35%フロアブルを1回塗沫処理（12mL/kg 種子）、0.5%粒剤を1回株元処理（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、400L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.090、0.025 ppm

クロチアニジン：0.028、0.019 ppm

③⑨ 未成熟いんげん

未成熟いんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（300L/10a、150L/10a）を3回散布したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.071、0.053 ppm

クロチアニジン：0.074、0.118 ppm

④⑩ ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200、300L/10a、250/10a）を2回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.26、2.62 ppm

クロチアニジン：0.68、0.75 ppm

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回播溝処理（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200、300L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.96、4.02 ppm

クロチアニジン：0.58、1.20 ppm

④⑪ オクラ

オクラ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000

倍希釈液(150-210L/10a、200L/10a)を3回散布したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.30、0.21 ppm

クロチアニジン：<0.01、0.01 ppm

④②れんこん

れんこん(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2回湛水処理(6kg/10a)したところ、処理後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

れんこん(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を3回湛水処理(6kg/10a)したところ、処理後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.006、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

④③うこぎ

うこぎ(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を2回散布(150L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.4、<0.2 ppm

クロチアニジン：<0.2、<0.2 ppm

④④エンサイ

エンサイ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.07、0.42 ppm

クロチアニジン：<0.02、0.04 ppm

④⑤みょうが

みょうが(花穂)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(300L/10a)を3回散布したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.02、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

④⑥モロヘイヤ

モロヘイヤ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200-211 L/10a）を3回散布したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.66、0.36 ppm

クロチアニジン：0.43、0.34 ppm

④⑦温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.040、0.008 ppm

クロチアニジン：0.013、<0.005 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を2回散布したところ、散布後21、28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.018、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.007、<0.005 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.65、0.74 ppm

クロチアニジン：0.28、0.12 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（500L/10a）したところ、散布後21、28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.47、0.58 ppm

クロチアニジン：0.24、0.12 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（500L/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.08 ppm

クロチアニジン：0.014 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤

の2000倍希釈液(100L/10a)を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.094 ppm

クロチアニジン：0.022 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.99 ppm

クロチアニジン：0.51 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(100L/10a)を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：1.12 ppm

クロチアニジン：0.47 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.030 ppm

クロチアニジン：0.008 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(100L/10a)を3回散布したところ、散布後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.050 ppm

クロチアニジン：0.011 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.00 ppm

クロチアニジン：0.30 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(100L/10a)を3回散布したところ、散布後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 1.36 ppm

クロチアニジン : 0.36 ppm

㊥ なつみかん

なつみかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14~64日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.024、0.018 ppm

クロチアニジン : 0.010、0.008 ppm

なつみかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を2回散布したところ、散布後28~64日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.006、0.008 ppm

クロチアニジン : 0.005、<0.005 ppm

なつみかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14~64日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.38、0.55 ppm

クロチアニジン : 0.14、0.13 ppm

なつみかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を2回散布したところ、散布後28~64日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.20、0.20 ppm

クロチアニジン : 0.04、0.08 ppm

なつみかん（全果実）^{※3)}を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14~64日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.1、0.14 ppm

クロチアニジン : 0.04、0.04 ppm

なつみかん（全果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を2回散布したところ、散布後28~64日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.06、0.07 ppm

クロチアニジン : 0.02、0.02 ppm

なつみかん（果実全体）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（1224L/10a、600L/10a）を3回散布したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.48、0.22 ppm

クロチアニジン：0.03、0.03 ppm

④9すだち

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.040 ppm

クロチアニジン：0.038 ppm

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（500L/10a）したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.13 ppm

クロチアニジン：0.06 ppm

④0かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.058 ppm

クロチアニジン：0.010 ppm

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（640L/10a）を3回散布したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.05 ppm

クロチアニジン：0.02 ppm

④1ゆず

ゆず（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.097 ppm

クロチアニジン：0.063 ppm

㉔りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a、700L/10a）を2回散布したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.064、0.050 ppm

クロチアニジン：0.006、0.010 ppm

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液（500L/10a、700L/10a）を2回散布したところ、散布後7～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.092、0.044 ppm

クロチアニジン：0.008、<0.005 ppm

㉕日本なし

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（400L/10a）を3回散布したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.045、0.018 ppm

クロチアニジン：0.016、0.011 ppm

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（400L/10a）を4回散布したところ、散布後12、19日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.039 ppm

クロチアニジン：0.016 ppm

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a、400L/10a）を3回散布したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.32、0.14 ppm

クロチアニジン：<0.02、0.04 ppm

㉖もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（400L/10a、350L/10a）を3回散布したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.059 ppm

クロチアニジン：0.046、0.080 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000

倍希积液(400L/10a、350L/10a)を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.10、0.23 ppm

クロチアニジン：0.15、0.26 ppm

もも(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回地表表面処理(200g/樹)したところ、散布後30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.02、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

もも(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回地表表面処理(200g/樹)したところ、散布後30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.1、<0.1 ppm

クロチアニジン：<0.1、<0.1 ppm

もも(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希积液(500L/10a、400L/10a)を3回散布したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.12、0.14 ppm

クロチアニジン：0.08、0.12 ppm

もも(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希积液(500L/10a、400L/10a)を3回散布したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：2.64、1.90 ppm

クロチアニジン：0.53、0.61 ppm

㊦ すもも

すもも(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希积液(300L/10a、500L/10a)を3回散布したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.03、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

㊧ うめ

うめ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希积液(600L/10a、400L/10a)を2回散布したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。